

志楽ダイヤモンド協議会理事長就任挨拶



理事長 森田諭

和をもって、輪となりうる協議会に



この志楽ダイヤモンド協議会は発足して4年、元々は農協が志楽地区から撤退する事を期に、当時の各地区の自治会長さんが中心となって事務局を立ち上げ、また、各団体や振興会と協力しあって、地域のみなさんが自由に、気軽に参加できる事業を続けていきたい、そして地域間の交流を深め、地域文化を向上させていくんだという志をもって発足したと聞いています。

役員会のあり方については、自治会長の中から、副理事長はもちろんのこと、議長役を選出して議事を進行していただくよう考えています。各地区においての苦情や問題、そしてその対策や取り組みなどを役員会で報告してもらうことで、他地区のことを参考に各地区の役員会に諮ることもでき、小さなことが志楽地区全体の取り組みへと繋がっていく基になればいいと思うし、協議会・志楽地区として陳情すべき事をまとめるなど、和をもって、輪となりうる協議会にしたいと考えています。



運営委員会の活動について

全体会では、うまか市を開催し、地元産の野菜などを販売します。



文化部

広報、花見マップの作成、料理教室やガーデニング教室を開催します。

育成部

体操教室、「高専のロボット達がやって来る」、子育て支援協議会の活動支援などを行います。

園芸部

ダイヤモンド農園の管理とヤーコンや野菜や花の栽培と販売をします。



片又喜八郎前理事長の功績

片又さんはダイヤモンド協議会の理事長として永い間にわたり志楽のためにご尽力下さり本当にご苦労さまでした。農協志楽支店が撤退する当時の区長会長の立場で、区長会の存続があやぶまれるなか、志楽の各町内がばらばらになるのを防ぐために立ち上がられたと聞いております。従来からの区長会業務だけでなく、志楽の中にある各種団体が横の連携をはかりよりよい志楽づくりを目指すものとされました。それは府内でもめずらしいと評価されるものとなりました。

運営副委員長 岡山美幸



片又さんと運営委員の有志とで村おこしの先進地を視察しようと福知山市や南丹市（美山町）を訪問し地域の活性化について学びました。休耕田畑を利用しての志楽活性化を考えられ、そこで出会ったのが京都府主催の地域力再生フォーラムにおける南山城村のヤーコン栽培でした。南山城村より種いもをとり寄せ、園芸部で栽培するようになりました。

また、舞鶴高専とのつながりが出来るきっかけを作っておりました。志楽地区敬老会に高専の吹奏楽部の演奏をお願いし出席者から元気もらったとよろこばれました。今では志楽小学校体育館での“高専のロボットがやって来る”や高専祭に地域交流コーナーとして学生との合同展示や文化部によるハンギングバスケットで学校の玄関をはなやかに飾り遠くから見学に来られた保護者に見てもらいました。



片又さんは志楽が住み良い地域になるように、また子ども達が巣立っても再び志楽へもどって来てくれるような地域であってほしいと一生懸命でした。そしてその思いに賛同して集まった人達で何度も何度も夜に集まり熱心に話し合いました。

